

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成16年8月12日(2004.8.12)

【公開番号】特開2000-305030(P2000-305030A)

【公開日】平成12年11月2日(2000.11.2)

【出願番号】特願平11-115292

【国際特許分類第7版】

G 02 B 26/10

B 41 J 2/44

H 04 N 1/113

【F I】

G 02 B 26/10 D

B 41 J 3/00 D

H 04 N 1/04 104 A

【手続補正書】

【提出日】平成15年7月23日(2003.7.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

レーザ光束を等角速度偏向する回転多面鏡と、前記回転多面鏡により等角速度偏向されたレーザ光束を等速度偏向に補正するfレンズと、前記fレンズにより補正されたレーザ光束に対して前記回転多面鏡の面倒れを補正して被走査面上に結像する面倒れ補正レンズとを備えた走査光学装置において、

前記fレンズを透過して前記面倒れ補正レンズの走査終了側のエッジ部に向かうレーザ光束を遮光する遮光部材を備えたことを特徴とする走査光学装置。

【請求項2】

前記遮光部材は、前記面倒れ補正レンズの取り付け部材であるか、または前記取り付け部材に取り付けられていることを特徴とする請求項1または2記載の走査光学装置。

【請求項3】

前記遮光部材は、前記面倒れ補正レンズまたはその取り付け部材に塗布または貼り付けられていることを特徴とする請求項1または2記載の走査光学装置。

【請求項4】

レーザ光束を発するレーザ光源と、このレーザ光束をモニタする1つの受光素子を有し、前記レーザ光源を前記面倒れ補正レンズの有効光路外であって走査終了側で順次発光させて前記1つの受光素子によりモニタすることにより、前記レーザ光源の光量を制御することを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1項に記載の走査光学装置。

【請求項5】

前記レーザ光束及びレーザ光源が複数であることを特徴とする請求項4記載の走査光学装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

第4の手段は、第1ないし第3の手段においてレーザ光束を発するレーザ光源と、このレーザ光束をモニタする1つの受光素子を有し、前記レーザ光源を前記面倒れ補正レンズの有効光路外であって走査終了側で順次発光させて前記1つの受光素子によりモニタすることにより、前記レーザ光源の光量を制御することを特徴とする。

第5の手段は、第4の手段において前記レーザ光束及びレーザ光源が複数であることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

請求項4および5記載の発明によれば、APC制御のために走査終了側で点灯させる場合にフレアを防止することができる。